



(復刊二十号)



副会長 小俣喜久子

日本女医の真価を發揮しよう

世界の人々をアッとさせた東京オリンピックは、国民総ての誠実と協力による惜しみない努力の結果であり、競技並びに運営面でも数々の新記録を残して閉幕となりました。

特に東京オリンピックで公開された二つの式典、その大セレモニーの演出と構成は近代オリンピック史上、永久に残ることでありましょう。

又若い世代の人々が国旗と国歌の良さを理屈でなく感銘深く味わい得たのも東京オリンピックであったからこそと思います。

日本女医会が総ての女医の方々に理屈でなく日本女医会の会員であること自覚し、又これを誇りとされるようになるには現在の私共会員がどうすればよいのでしょうか。このためには女医の方々が協力することによって世のため人のためになるような趣旨、計画等つくって、あらゆる広報、機関を利用して日本中の女医の方々に連絡を

密にし、日本女医会員として大いに活躍出来るような態勢になれたらと思います。

前会誌に龍会長がのべられている献血運動などは支部単位の活動亦協力態勢を具体化させる上に如何なるものでしょう。

会長をはじめ先輩諸師先生方が日本女医会の発展のため努力を惜しまず多方面で活躍してらっしゃいますことは既に御承知のことでありますが、さきに述べた態勢になるためには総べての女医の方々が是非入会したくなるような和やかな近親感もてる会であらねばならないと思えます。

又東京オリンピックの成功によって真の日本の姿が世界の津々浦々にまで広く認識を新たにされているとき、国際女医会員としても日本女医の真価を發揮して国際的評価を高めるように、今後一層会員諸師先生方のために御協力とお骨折をお願いいたします。

デンマークに於ける 社会保障制度の概要

愛知県支部長 森川みどり

デンマーク(人口43万立憲君主制)は高度発達して所謂国民は播種から墓場迄あらゆる社会福祉の恩恵に浴すことが出来るという事は、衆知のことです。多くのデンマーク人は社会生活の数々の問題を法律と団体活動によってこれをうまく解決した。社会は人々の生活と福祉を保証する様組織されているので、政党的如何に関らず、かかる考え方によって今日デンマークでは誰もが生活の最少限度を保証されており、從つてひどい階級差というものをなくし、又個人の権利の尊重と共同の責任との健全なバランスをとることを可能にした。従来の社会政策は困った人を助ける為であったが、今ではその予防策を講じること重点をおくようになった。即ち今日では社会保障其の他に

よつて収入が断たれた環境から保護されている。例えば病気、作業中の事故、失業、老年及不具に対する保険、或は社会的援助により保護されているのである。

○社会保険
全国民に適用され費用は殆んど国庫負担による。

○医療
健保加入者は無料で治療を受けることが出来る。低所得者の保険料は免除され保険は治療ばかりでなく、派出看護婦、病床に於ける療養補償、葬儀の費用の支給も規定されている。

○療養手当
全賃金収入者に支払われ、年間26週間迄保証されている。

○失業手当
平均して未経験者の日当の60%の手当を支給される。これ等の費用は被保険者の保険料と国庫負担による。

○作業中の事故による補償
この費用は事業主の負担であるため職場の安全に対する関心を深める結果となった。

○老令年金
資格年齢は67才以上。67才に達した者は他に如何程収入があつても年金を差引かれることはない。凡て国庫負担であり生活困難者は老人ホームに収容し小遣を支給される。現在約七百の老人ホームがあつて約二万名を収容出来る。

○不具年金
収入が少なくなった場合にのみ支給される。

○未亡人手当
未亡人年金法により①結婚生活五年以上を経た55才を超える者②二人以上の

の子供を扶養する45才以上の者③50以上の寡婦④規定以下の収入で且つ子供のある者等に支給される。これ等未亡人の職業訓練費、低収入者であつて、子供が18才以下の場合はその子供に対し特別の補償がある。

○家族の福祉
出産妊婦はその半数が入院して出産をする。出産に際しての費用は無料であり、自宅出産の場合も助産婦の費用、医療費の全額を支給されるが後者の場合は最初二週間ホームヘルパーが派遣される。妊婦が健保の本人の場合には14週間の補償費を受けられる。

○墮胎の問題
医学的、精神病、暴行による場合以外の個人的理由は認められない。

○私生児の母親
一般の出産と同様の取扱いを受けられる。万一母親があまりにも若い等の理由により子供の面倒がみられぬ場合は養子又は施設に世話をする。

○乳幼児の健康管理
保健婦が定期的な家庭を訪問し育児、栄養等につき指導に当たっている。種痘は義務制であつて他にジフテリア、小児麻痺の予防注射が行われる。

○保育所幼稚園
殆んど私立、国及び地方庁の補助により公の監督下にある。施設は凡ての児童に解放されているが費用は親の収入により異なる。保育所は約百五十収容児童約四千名幼稚園は約五百七十で児童は約二万七千名、其他職業を持つ母親のため放課後の世話をするレクリエ

一シヨ、センターがあり約百五十約八千名の子供が利用出来る。

○学校の健康管理

学校医が配属されることを法律で定められ、必要があれば看護婦も配属される。結核予防に力を入れ、言語障害の子供についても早期治療を行い、歯科の治療も無料で行われる。

○学校給食

これは学童の健康増進と大家族の経済負担を軽減することを目的とし、費用は国庫及地方庁の負担となつてい

○休日の計画

この休日の過し方は既に数百年の歴史を持っていて都市の学童を地方の農家で招待し、低収入者の学童が対象とされている。併し一般の学童も参加出来、前者は凡ての費用は無料である。

○子供の手当

現在第一子は年額400クローネ(一クローネ約52円)第二子からは夫々450クローネずつ支給される。片親の場合は更に200クローネ加算される。

○特別子供手当

収入が一定の規準に達しない者で①子供が2名以上でアパートを借りている者②子供は1名でも独身者③独立

十一月三日文化の日に第二回生 存者叙勲の対象者として現在日本女医会理事竹内茂代先生に勲三等宝冠章、前理事三輪田繁子先生は勲四等宝冠章が贈られま

家屋でもあばら家に住む者④孤児老令者の子供、不具の子供に特別補助金を支給される。

○ホーム、ヘルプ、サービス

家事をするものが病氣其の他の理由で出来ない場合に地方官庁より提供される。洗濯、料理買物等を手伝い、費用は低所得者は無料、其他は収入に応じて支払われる。この他老令者、不具

○一般教育

中等学校送義務教育であり、教科書学用品其他凡て無料。大学も原則としては無料である。

○身体障害者及び精神者対策

主として国がその責任を負い、これ

第十回国際女医会学術講演報告

中 村 西 子

第十回国際女医会の主題は慢性疾患の予防でしたが、そのプログラムは前号で御知らせ致してありますので、今回は主な学術講演の要旨のみ報告致します。

(一)慢性婦人科疾患の予防

主演者 Dr. Hallum (英国) は慢性婦人科患の多くは妊娠中及び分娩時更に産後の誤った処置が屢々原因となる場合がある。自分の発言は英国に於け

等の人々が一般人に近い社会生活が出来る様援助している。盲聾、精薄児のための特殊学校。又患者によつては個人家庭にあずかり、次第に平常な生活に導かれる方法も講じている。

○不妊術

一、本人が希望し 二、本人のため 三、保護者の同意により施される。

○アルコール

教育、配給のコントロール、高率の課税により消費量が非常に減少した。アルコール中毒に対しては特殊な治療施設があり、必要な場合は強制治療を行う。

国家予算の60%が国防費30%が社会保障に組まれ国民の納税率も最低30%より高額は80-90%に上りそのうち医師は65-70%である。

の筋肉の過度の伸展によるので子宮口が充分開大する迄は腹圧を加えることをさけるやうに指導する。又膀胱腫脹直腸腫脹、慢性白帯下、月経過多の予防等について述べた。

Dr. Banting (カナダ) は子宮頸部癌の

予防として30才以上の婦人の検診にはパペニコロー細胞診を行ふ。そして之はツベルクリン反応を行ふのと同じレベルに予防医学上とりあげ細胞診のエキスパートの養成の為に各国で交換教育を行ひ度いと強調した。Dr. Hunziker (スイス) は慢性婦人科疾患の予防上性教育が重要な役割を演じ性病や墮胎を防ぐことにもなる。之には両親が子供に正しい性教育が出来るやう医師や牧師も協力することが望ましい。

(二)婦人と小児の貧血

Dr. Gleitsch (ノールウェー) は鉄欠乏性貧血に就いて述べたが、此の原因に比較的屢々あるけれども余り知られてゐない Pica (異食症) について話した。Dr. Miller (オーストラリア) オーストラリアでは貧血は特別に問題ではないけれども、一九五八年以来シドニーで血液学者チームを作つて調査したところ、民族的特徴は認められず、十二指腸虫マラリア蛋白質欠乏の食事に原因が多かつた。Dr. Robertson (ケープタウン) は、妊娠婦検診一八〇

例のヘモグロビン測定の結果白人、アフリカ人ケープタウンの黒人の間ではかなりの差異が認められ、黒人には貧血が多かつた。Dr. Trosier (フランス) は新生児の溶血性貧血特に水腫症

は分娩直後、及び最初の24時間更に其の後数時間の適切な処置により、救ふことが出来、産科医小児科医の協力に依り19例中8例の成功例を経験した。

(三)成人及び子供の肥満症及び糖尿病予防の為にルチンな身体検査の必要

主演者は Joslin clinice & Dr. White (アメリカ) は糖尿病予防を優生学的見地並に病気の進行を防ぐ方面から論議した。糖尿病の予防は甚だ困難である。何故なら多くの場合40才以上になつてから始めて病状が発現するからである。本疾患は予防上四つの段階に分ける。

①糖尿病前症 (Prediabetes) 家族歴既往症特に産科的既往症により考慮し化学的検査では IIA の上昇 Sialic acid の増加、眼球結膜の検査、腎生検、皮膚及筋肉の生検、脈波の異常で診断がしつ。

②化学的糖尿病 (Chemical Diabetes)

糖負荷試験で異常を示す時期をいふ。③顕著な糖尿病 (Overt Diabetes) 定型的な症状の出そろつた時期である。

④慢性糖尿病 (Chronic Diabetes) 全身の血管系に糖尿病特有の変化を認め、合併症をおこす時期である。

又結婚に際して家族歴を調査する事は意義がある。糖尿病は常染色体の劣性遺伝の特徴があるからである。Dr. Bastrup (デンマーク) 二九五

二年にコペンハーゲンでは、小児糖尿病患者を取容する施設が出来食餌療法も完全に行われる。家庭では管理が行き届かず、登校も思わくしく欠席がちになり、遂には社会問題にも及ぶよ

うにもなる。此の施設に入った27名の学童で五年後顕著な糖尿病と診断されたのは僅かに5名で残りはインシュリンの必要量も減少した、好成績をおさめている。

Dr. Waugh (アメリカ) は300例の子防身体検査を行った結果肥満症は48%で糖尿病は8%であった。肥満症を治療したのみでインシュリンの必要量が減少し又は不必要になった。妊婦検診では家族歴及び巨大児をもった既往症の婦人には必ず糖負荷試験を行うべきであると述べた。

姿勢及び運動障害の予防

Dr. Monichen (ノルウェー) は自分の国では病欠欠席の25%が姿勢或は運動の障害に属する。適当な時も時を得た治療により軽減出来る。身体検査には一部の筋肉或は関節のみでなく全身にわたって行ふ。原因を調べるときには、精神的方面も考えねばならない、例えば感情の緊張は呼吸運動を障害し筋肉を緊張させ過ぎ弛緩が阻止される、治療は患者医師物理療治師が一組となり筋肉の正しい使い方を教示することが望ましい。

Dr. Forester-Brown (スコットランド)

姿勢の障害は栄養失調、身体的精神的の疲労又は不良なデザインの家具の使用或はハイヒール、きつ過ぎるブラジャー等も主な原因になってゐる。

治療は困難であるが、過度の運動は既に疲労した子供には適しない。規則的に姿勢矯正の運動を家庭で行ふのがよい。之は Rollier により主張されて

いる。

小野 春生

ノイローゼ及び自殺傾向の予防

ノイローゼ及び自殺傾向の予防についてスイスのフィスター先生のお話がありました。一次予防は主に精神病を対象とします。二次の問題についてふれませんが二次的予防をとりあげました。

二次的予防を三つに分け、第一は薬剤に頼り過ぎる事です。世界各国、特に先進国では鎮静剤、精神安定剤の普及とともに薬剤に頼り過ぎる傾向があります。例えばドイツでは一年平均一人あたり鎮静剤、精神安定剤等を六十錠服用します。これは今日の社会が複雑でストレスがかかるとおっしゃる方にもありますが、アフリカの未開地の社会を研究した結果、そこにもそれなりに私共と同じ様なストレスがあります。医師は薬剤に頼り過ぎる人に対してこれを予防する義務があります。第二は一過性の反応、例えば避難民によく見られます。呆然としてしまう前に感情を爆発させるべきです。次は自殺をはかる過半数の人は精神病者ですが、全体に於ての共通点は必ず前に何らかの形で助けをもとめます。これが不安感、恐怖、孤独感、反抗、嫌悪等の形であらわれます。これに気づき自殺を予防することが医師の義務であります。

強度の患者は勿論精神科へまわすべ

きであります。一般医でもいろいろの訴えを聞いてあげる必要があります。医師が耳を傾ける重大性を強調しました。

オスロの新聞記者会見記

山崎 倫子

サンデフォルドでの国際女医学会総会

最後の日、オスロ新聞からインタビューの申込みがあり私が代表で会う事になりました。記事を取りにこられたのは年配のベテランらしい婦人記者で、一九五三年に一度日本にも来たことがあるとかで、現代の日本、特に妊娠中絶をめぐる諸問題について話を聞きた



(オスロの新聞紙上より)

北欧諸国では老人の自殺が多いのは社会制度がよく、そのために生きる目的がなくなるためとでもいえるでしょう。

いとのことでした。

最初に日本に於ける医学教育、国家試験の制度、そして日本には四十六の医科大学があり毎年度約三千人の医師が誕生していること、学校は唯一つの女子医科大学を除き全部男女共学であること、現在日本には約十万人の医師がいて、うち一割の約一万人が女医であって、今回の国際女医学会総会には二十六人の女医が日本の各地から参加していることを述べました。

男女医の比率はノルウェーでも大体同じだが、医科大学が四十六校もあるのは随分驚ろいていました。日本では毎年何百万もの妊娠中絶が自由に行われていると聞いているがそれについて詳しく知りたい、又産児制限はどのように教えられるのかと質問されました。妊娠中絶は決して自由ではない。優生保護法という法律があつてそれに基づいて優生手術、人工妊娠中絶及び受胎調節の指導を行うことが出来るのである。即ち本人又は配偶者に精神変

質症遺伝性疾患のある場合、(前記の疾患が本人又は配偶者の四等親血族関係にあるもの)、(顔疾患に罹り且つ子孫に伝染する虞のあるもの)、(妊娠の経緯又は分娩が身体的又は経済的理由で母体の健康を著しく害する虞のあるもの)の適応にあてはまる場合に、優生保護指定医である婦人科専門医によって手術を受けることが出来るのであって、野放図に無制限に行われているという事は誤解である。

年間の人工妊娠中絶数は一九五二年以来百万から百万前後の数に昇っているが、一九六二年は約九十八万である。この他に届かない所謂闇の中絶もあり年間略同数位であろうと専門家によって推計されている。この闇の中絶というのを開業医が届出を怠ったものが主であつて、殆んど全てが広範囲の適応に準ずるものと考えられるし諸外国に於ける様に非医師、素人助産婦等によって行われるのと異なり、全てが婦人科専門医によつて極めて安全に行われている。受胎調節も婦人科医に於ては勿論、保健所、結婚相談所、開業助産婦、町村保健婦その他に於て指導され、日本では強い宗教的反対もないので印刷物等を介してもこれを知ることが出来る。受胎調節の普及率も実行率も、相当高いと云えよう。指導的立場にある我々は妊娠中絶を出来るだけ避けて受胎調節による家族計画を奨励している。日本がまるで随胎固であるかの如き認識をお持ちなら是非改めて欲しいと強調した次第です。

次に求人難、特に家事雑用のお手伝いの不足は著しいが日本ではどうかと
のこと……これは日本でもまったく同様で、お手伝いはかりか看護婦も不足で非常に困ったことだと話しあいました。

又青少年の非行と性の問題についてはノールウエーばかりでなく北欧ではどこでも悩みの種で、特に性の乱れは目を被うものがあるらしく附随して私生児の問題も大変頭の痛いことだそう
です。

さて日本は……と聞かれましたが、日本でも最近では青少年の非行や犯罪が増え、性に関する考え方もルーズになつて来て大変嘆けかわしい事であるが、まだそれ程深刻な問題ではないと思ふ。幸に日本ではまだ結婚前に性関係を結ぶというようなことは極く稀で、あつてはならないこととして各家庭に於てしつけられていると述べましたが大変に羨やましがられました。其の他喫煙、飲酒、深夜族、ビートルズSEX等色々な話も出ましたが日本でも手遅れにならないうちに皆で考えなければならぬ問題と痛感しました。

次に日本には新しい宗教運動があつて国会にも沢山の議員を送っているそうだが、どう云う宗教かと聞かれ、はるか北歐で創価学会が有名であつたのは驚ろきでした。日本では戦後神道がなくなつたので人々が心のよりどころを求めてその様な新しい宗教運動が生れたのではないか、この宗教はもつと発展するのではないか、政治的圧力団

体になりわしいか、等々仲々きびしい質問でした。私は創価学会については極一般的なことしか知らない特別な意見もなく残念ながら批判も出来ないからとノーマコメントでかんべん願ひましたが非常に精しいのには驚ろかされました。最後にノールウエーは大変静かなそして絵のように美しい清潔な国で大変気に入りました。

何処に行つても、何を見ても清潔で美しい以外に言葉がありません。この会の計画、運営に全ゆる努力を惜しまなかつたノールウエー女医会、そして精一杯のサービスをして下さつた役員

新入会員の言葉

鈴木 幹子

当事者はもとより、ホテルの従業員から給仕に至るまで皆さんの親切は身に
秘み深く感謝する次第です。ここに滞在した六日間、めまぐるしい日本からやつて来た私達は時間がストップしてしまつたのではないかとこの錯覚をおぼえる程のんびりしてしまいました。この総会でいろいろの国の沢山のお友達が出来多く学ぶこともあり楽しい想
出が出来たことは本当に嬉しいことです。重ねてノールウエーの女医会に感謝と敬意を表したいと結んで会見を終
りました。

今や世の中は、所謂泰平ムードのうちにあるかに感ぜられる。経済繁栄の陰にはびこるのは焰々たる物質万能主義である。人々は唯安易な生活と個人的な楽しみとを追求し、遠大な志もなく、精神的な高い理想も失い、自由への憧れさえも忘れ去つたかに見える。これではよいのであるか……

未来に対する理想より高きもの、より尊きものに対するビジョンなくして私共は決して良くならないのではなからうか。私共の先輩諸先生方は、その勉学が困難な時代に、社会的状況が極めて不利な時代に、向学の志を燃やし自らを磨き鍛へ眼を輝かして理想を追

がある。しかし自然界の生み出すさまざまな現象にぶつかつて、それぞれに向かい克服する科学の一部野に位置するものとして、それを利用して効果を見出す時、そこには人間を信する美しさが育てるよるこびがあるはずである。これが自然と人間とがもたらす真の幸福といふものではなからうか。

私共医学にたずさわる者のよるこびはそこへのみ見出されるのではないかと心ひそかに思うものである。そこには人生の不安を忘れさせ、私共の心に平安と活気とをみなぎらせてくれよう。これからの私共は、個人としては勿論、集団としても互に協力し努めねばならないのではなからうか。従来やゝもすると、私共女性性は、個人主義で、一人一人は極めて善良な正直な親しみやすい人々であつても、卒業してしまつてもうそれきり、互の連絡をとりあつて結集し女医のために尽すと共に大いに互に利用しあうといつた気分のみで稀薄な、淡々とした人々が多く、この党派心のないことが傍からみれば長所であり、内側からみれば欠点でもあつた。昔はそれでもすんだのである

出田松岡両者の歓迎会の催について

大阪第十支部 今 泉 テ イ
大阪第二支部 東 条 一 子

七月二十二日日本女医会大阪支部が 岡(かたの会) 両姉歓迎お茶の会を開
十支部制になり初の行事として本年度 催しました。
国際女医会に当地より出席の出田、松 両師も快く出席の御返事が加え



会長(右より4人目)を迎えて

て龍会長も折よく関西旅行の途中御出席との事一同期待してお待ちいたしました。

当日は龍会長開会一時間前からすでに会場にみえ両姉を御待ち下さいました。開会三十分前に至り突然出陣病欠の止むなき電話連絡に驚かされ併し松岡姉はこられる故と定刻一時間過ぎまで延長しましたが終に御出席なく折角貴重な時間をさいて馳けつけて頂いた、会長並に六十余名の御出席会員に申訳なく前例のない歓迎会を、懇親会へと切り替え開催と云う次第でした。

全く幹事の不手際にて誌上をかり、龍先生並びに出席の諸先方に御詫びします。

しかし会は皆様の心遣ひにより非常に朗らかに且つ和気あいあいの内に進行し、特に会長龍先生には前佐藤会長があまりにも人格高潔博學であられそ

の上、会の発展のための御努力は自分はお傍で拝見して常々感服してました。

日々隆盛の途を辿る日本女医会を先生なればと、心から讃辞をお送りしていた一人でしたが、不幸にもあまりにも突然の御他界に一日一日がかえって偲れてなりません。

先生なきあと、日本女医会発展の資金にと金百萬円也の御寄附を御家族より頂戴致しこの様にお心にかけていたと思えますと胸に迫る思ひが致します。

初代からの会長の方々の御苦心にお酬いしようと、心にお誓い致しては居りますが、未だ日浅く微力の私を何卒諸先生のお力をお借し頂きたいとの新任の挨拶あり、引続き当日出陣、松岡、両姉の突然の御欠席のため国際女医会総会の模様はいづれ本部より出席されました先生から詳細の御報告がありますが、先日日本女医会本部へ送られて来ましたが、ハイライト(簡単に国際女医会の近況を話して頂きました)大略は次の様です。

- 一、次回はカナダ開催
- 一、会長改選の時期(すでにオーストリア、オーストラリアが立候補していられます)

一、議題は女医全体の活動力について次に大里先生菅沼先生より外遊の楽しい思い出話を色々お聞きし時間のたつのも忘れ、途中で別室の立食パーティの方へ急がされるしまつてした。比処でも打溶けた雰囲気の中に活発な

所信が述べられ、次々と感心させられたり爆笑したり、楽しく有意義な会に終始した事は世話係一同慶びにたえませんでした。(文責東条一子)

福岡県支部会

当番 江崎 佐規

オリンピックが終つて、なんとなくほっと一息ついた秋晴れの日曜日十月二十五日、掛札たき先生の国際女医会議出席報告をかねてひさびさに日本女医会福岡県支部の集りを持ちました。

会場となった北九州市小倉区田川旅館の一室は特に由緒あるという「菅生の間」で、都会の真中にあるさわがしさを忘れさせる築山、泉水の静かなたたずまいの中にあり、本心に気持のよいひとときをすごすことが出来ました。

出席者は鶴風会より柴田富美先生の御骨折で六名、加多乃会より二名の御出席を得、至誠会十六名、計二十四名の思いがけない大勢の出席で当番はあわて、席をこしらえるという嬉しい悲鳴をあげました。さて掛札先生より沢山のカラー写真を見せて頂きサンデファイヨルドの学会の様子、各国女医との交友のほかに、他の海外旅行者より聞くことの出来ない細かな海外旅行の注意をおりませめてのお話しに、一同笑ったり感嘆したりの実に有益な時間を過しました。会員も国際女医会議などの機会に海外にどしどし出かけて見

聞をひろめることが大切なこと。よい団体に属してよい相手と一緒にあれば実に楽しいものであつて、言葉の不自由なことは問題にならないこと。など、地方にいるとどうしても国際的な感覚にうとくなり、会員に「ひとつこの次は」という気持をおこさせたいようでございます。

ただ女医という名にのつかつて、惰性で働いているような日々を送るのではなく、それにふさわしい目的をもった努力と研修をつまねばならないということを掛札先生のお話しのうちにづく感じた次第です。

石川県支部総会

(昭和三十九年度)

幹事 米 林 梅子

九月二十七日(日)金沢市沢木町石川県職員会館で総会を催しました。

本年二月二十七日に御逝去遊ばされた佐藤やい先生の御冥福をお祈りして全員起立、黙禱を捧げました。

六月十四日総会で龍知恵子先生、会長に推薦就任された旨を伝達

山本杉先生、来年参議院議員出馬御希望、全員の援助期待を支部長より伝えられました。

講演々臨床検査法について、金沢大学附属病院中央臨床検査部長 早稲田正澄先生

当日出席者(敬称略)

荒井梅子、早稲田かめの、細川もりの、武田孝、一林なを、島津つる、大岸喜和子、堀岡芳枝、織田秀子、米林梅子、中山晶子、吉池朝子、宮村明子、梅田千弘、横井美佐子

名簿をおとどけいたします
送料百円をお送り下さい。

昭和三十六年度名簿発行以来満三年を経過し、新入会員あり、亦全国的に住居表示変更、電話番号改正が大巾に実施されましたので、振替用紙を使用し、亦總會通知返信等で細心の注意をはらい訂正してまいりましたが、尚不備のところも多々あることと思ひます。

訂正箇所は最後の私製ハガキを御利用の上御連絡下さい。尚全会員に名簿を寄贈いたしました。種々の物価騰貴の折から、印刷費引当金を用意してありますが、超過いたしましたので、送料並諸経費を含め百円を頂くことになりました。お手数ですが御送金下さいませようお願ひいたします。

- 会費十年分前納者
- 工藤 アイ 林 千代子
 - 廖 阿敏 天沼 恭子
 - 石島 栄子 市来不二枝
 - 及川 貞 今泉 テイ
 - 千島チエ子 (五年分)

日本の医師の現状

昭和	医師総数	医療施設の従事者			医療施設以外の従事者		
		総数 女/(%)	開設者	勤務者	医育機関 医勤務者	臨床以外の 医育機関	衛生行政 保健事業
三十七年	105,437 (9.3)	52,086 (49.4%)	36,745 (34.9%)	9,731 (9.2%)	2,043 (1.9%)	2,301 (2.2%)	2,531 (2.4%)
	9,795	4,557	3,538	525	74	515	586
二十九年	92,442	44,017 (47.6%)	30,862 (33.4%)	9,220 (10%)	2,937 (6.2%)	2,794	2,612 (2.8%)
	8,572	3,554	3,038	531	131	515	803

その他の職業又は無職の医師

昭和	性別	総数	その他の職	無職
昭和37年	男	1,050 (1%)	353	697 (0.73%)
	女	275 (2.9%)	15	260 (2.7%)
昭和29年	男	1,809 (2.2%)	566	1,243 (1.5%)
	女	803 (9.4%)	65	738 (8.7%)

医者業務の種類

業務の種類	医師の数		
	男 (%)	女 (%)	小計
開業医	47,529 (49.6)	4,557 (46.5)	52,086
臨床の勤務医	33,207 (34.6)	3,538 (36.1)	36,745
医学研究機関の臨床の 医職医師又臨床研究者	9,206 (9.5)	525 (5.4)	9,731
医学研究機関の 基礎的研究者及教職医師	1,969 (2.4)	74 (0.7)	2,043
公衆衛生及保健行政に従事する医師	1,786 (1.7)	515 (5.2)	2,301
その他	1,945 (2.2)	586 (6.0)	2,531
総計	95,642(100.0)	9,795 (100.0)	105,437

昭和三十九年度名簿発行に際し住所不明者は支部長を通じ又各同窓会事務所をとうして調査いたしました。尚左記の会員の方々が不明ですので、御存知の方がございましたら御一報頂きたくお願いいたします。

(東京部) 小西玲子 外山智恵子
千葉紀子 斉藤敏子 市原久枝
田中敬子 小熊トシ子 富田芳子
安東敬子 相島芳枝 小山生子
長川 静 由利富美子
(北海道) 岩田和子 大野昌子
佐藤典子 佐藤リツ 堀千鶴子
三浦玲子
(青森) 稲垣鶴代 田口和子
(宮城) 栗原佳子 安藤浅江
吉崎喜美子
(群馬) 阿部登志 佐藤貞子
戸倉慶子 保坂春子 中山綾子
吉沢マサエ
(千葉) 竹内みさ子 成田利子
(茨城) 軽部昌子 長岡 薫
(長野) 安田明生
(富山) 加藤美子 吉島豊子
(三重) 横井通子
(滋賀) 西条澄子
(奈良) 中桐一枝
(広島) 岡本芳枝 大膳田鶴子
野村澄江
(鳥取) 石川シガ
(佐賀) 堤 千尋
(長崎) 品川靖子 品川葉子
浜崎マス
(宮崎) 堺富貴子
(鹿児島) 岡崎綾子

(山口) 三木静枝
(香川) 竹村博子
(徳島) 佐々佐智子 高木佐世子
(兵庫) 加古文子 武田 節
斉藤慶子 山口永子
(神奈川) 内村好江 古賀郁子
手塚婦美子 古川敏子 森崎美代子
(静岡) 田原文生
(大阪) 太田 豊 大塚弘子
金田すみ子 酒井文子 仙波歳子
高田アイ 土橋永子 藤井和子
松本トミ子

★編集後記★

日本女医学会の事務所に近いところに「何時でもいる」と言う理由でか、近頃校正のお手伝いをして頂いています。福田幹子先生が、時々「責任はわしが持つ」と胸をたたいておっしゃるのをきいて、ますます気が軽いです。

女医学会誌発行の意義を今更云々する気は毛頭無いが、校正屋の個人的発言を許されるならば、皆様のお力で読み甲斐のあるものにしていただき度いと念じます。為にはいい原稿は勿論ですが、苦言も御助言もともにいただきたいのでございます。目も耳もよく其の機能を發揮できるように努力いたしますので、よろしく御願い申し上げます。
久保田

昭和三十九年十一月二十五日印刷
昭和三十九年十一月三十日発行
編集人 日本女医学会幹
発行人 日本女医学会
発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19
電話(31)〇九六八
振替東京六九六八
印刷所 東京都港区麻布田島町63
福田印刷株式会社
(題字、故吉岡弥生)